

リスクコミュニケーション について

1

食品の「リスク」とは？

食品中にハザード(健康に悪影響をもたらす可能性のある物質等)が存在する結果として生じる悪影響の確率とその程度の関数

※日本語にはなかった概念 「Risk」≠「危険」
(必ず起きるかどうかはわからない)

2

絶対に安全な食品はあるか？

ある物質が健康に悪影響を及ぼすかどうかはその物質の有害性と摂取量で決まる。

※どんな物質・食品も摂取量によっては健康に悪影響を及ぼす可能性がある。(リスクゼロはあり得ない。)

3

「リスクコミュニケーション」とは？

リスクに関係する人々の間で、食品のリスクに関する情報や意見を相互に交換すること。



※ 有害性やおこる確率がどの程度ならば受け入れ可能で、そのレベルまでリスクを下げるためにどうすれば良いかについて関係者の理解を深め、共に考えようというもの。

4

「リスクコミュニケーション」 を難しくしている要因

- リスクの認知ギャップ
「実際のリスク」と「人々が感じるリスク
(認知リスク)」には差がある。
- 食品の安全性についての思い込み

5

リスクの認知ギャップ

- 実際のリスクよりも大きく感じられるハザード
 - ・未知のもの、情報が少ないもの
 - ・よく理解できないもの
 - ・自分でコントロールできないもの
- 実際のリスクよりも小さく感じられるハザード
 - ・便利さや利益が明らかなもの
 - ・自分でコントロールできるもの

6

食品の安全性についての 思い込み

- ・自然由来の物質は安全で合成化学物質は
みな危険
- ・有害なものがほんの少しでも入っていたら危険
- ・賞味期限を1日でも過ぎていれば危険